

2026年度 入学試験問題
第1回 S特選コース

国語

(45分)

〔注意〕

- 1 この問題冊子は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 解答用紙は、問題冊子にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、受験番号をマークすること。
- 3 解答は全て解答用紙に記入しなさい。
* 字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「」（ ）などの記号を含んだ字数として解答すること。
- 4 印刷が不鮮明な場合は申し出ること。
- 5 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
- 6 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ること。

一 次の――線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- 1、才媛の誉れが高い。
- 2、身の潔白を証明する。
- 3、暮色が迫る時刻だ。
- 4、従容とした様子だ。
- 5、物見遊山にでかける。
- 6、質問がタキにわたる。
- 7、キュウキュウ車が来る。
- 8、サイシンの注意を払う。
- 9、新セイヒンを買う。
- 10、夕日にハえる山々。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

圭介の父親（哲雄）は、カズキの父が入院している大学病院に外科医として勤務していたが、現在は定年退職している。哲雄は、外科医をしているところから常連として通っていたラーメン屋でカズキという少年と出会い、手助けを買って出た。

夜の母親の様子から、カズキは、パパはきつともう死ぬんだ、と思った。そう思ったとき、真っ先に胸をいっばいにしたのは、悲しみでも不安でもなく、ラーメンを食べさせてあげたい、という気持ちだった。パパが一番大好きなラーメンを食べれば、奇跡が起こって、病気が治るかもしれない。もっとも元気が出て、体力が戻って、すぐに病氣も吹っ飛ばせるに違いない。カズキは、そう信じることにしたのだ。

今はとにかく、目の前の歩道橋を駆け上ることに集中だ。何度も練習して、階段より自転車用のスロープの方が速く走れることに気づいた。寒さで鼻水が垂れてきそうになったが、細かいことを気にしている暇はなかった。すれ違う人の視線も、息苦しさも、どうでもよくなった。早く

運ばなきゃ。ラーメンが熱いうちに。それだけが、カズキの頭の中を支配していた。

「おい急げ、ガキンちょ」

歩道橋のてっぺんには、もこもことしたジャケットを着込んだ、怖そうなオジサンが待っていた。もつれそうになる足を無理矢理引つ張り上げて、お盆を前に突き出す。

「こぼすなよ！」

オジサンは、ガキのくせに変なプレッシャーをかけるんじゃないかマジで、と情けない声を出しつつ、しつかりとお盆を受け取った。渡す瞬間、ちらりと見えたストップウォッチのタイムは、大幅な記録更新だった。^①カズキは弾む胸を抑えながら、やった、と笑った。

* * *

——おい圭介、^②人の役に立て。

急に電話がかかってきて、開口一番、父親は圭介にそう言い放った。「四分間」「出前」というおおよその事情は聞いた。目標時間達成のために、圭介のスケボーが必要になったのだという。当然、気乗りなどしなかった。なんだそりゃ、都合のいいときだけ偉そうに、とさえ^③思う。

それでも、わかったよ、と引き受けたのは、父親に自分の姿を見せつけてやろうと思ったからだ。正直言って、子供だのラーメンだのは圭介にとってはどうでもいい。^④父に貸しを作っておけば、今後少しは小うるさく言われることもなくなるだろう、というくらい思いだった。

だが、いざ引き受けてみると、その子供とやらが、思った以上に必死の形相で真つすぐに歩道橋を駆け上がった。寒さに負けまいとするように、頬が真つ赤に染まっている。鼻水も垂れている。圭介は^⑤体中が栗立つのと同時に、あまりにも小さい理由で参加してしまったことに後悔していた。

父から聞いた自分の役割は、簡単なものだった。歩道橋の上まで子供がラーメンを運んでくる。子供の走力では限界があるので、代わりに圭介がラーメンを受け取り、スケボーで一気に歩道橋を横断して時間短縮をする。反対側に着いたら、ボードだけを歩道橋の上から滑り落として、下に待ち受ける父がキャッチする。圭介はえっちらおっちら階段を下りて再びスケボーを受け取り、大学病院の通用口まで漕いで届ける、という流れだ。普通に走るよりは速いかもしれないが、それでもギリギリ間に合うかどうかというラインだ。

ラーメン^⑥丼は、思った以上に重かった。子供から渡されたお盆を片手で持ち上げてバランスを取ると同時に、地面を蹴ってスケートボード^⑦をフルプッシュする。がーっ、と派手な音を立てて、ボードが前に進む。速度を緩めることなく、突き当たりでフロントサイドに九十度ターンする。目の前には、急角度のスロープが待っている。

行くぜ、と圭介は腹に力を込めた。片手にラーメン丼を載せた状態で、自転車用のスロープを滑り下りるのだ。離れ業なのは間違いないが、歩道橋の下に父親が陣取ると聞いた瞬間に、目の前で派手にキメてやろうと思っていた。だが、今は目的が少し違う。目標の四分を達成するために、一番肝になるのがこの歩道橋の上り下りだ。よちよち駆け下りるより、滑り下りれば相当な A になる。片手がふさがった状態での滑走は難しいが、難しいことをクリアするためでなければ、自分がここに意味などない。

「おい、圭介！ 無茶するな！」

父親の声が下から聞こえてくる。

ラーメン出前四分間なんて無茶を言い出したのは、そもそも親父だろうが。

「うっせえな！ 見とけ！」

口を開くと、思いの外、大きな声が出た。そのまま躊躇することなく、膝をやわらかくして傾斜に入る。傾いたボードは、狭い自転車用スロープを、勢いよく滑り下りる。あつという間にアスファルトの歩道が迫ってくる。地面の角度が変わる寸前で、圭介はボードごとふわりと飛んだ。足に吸いついているかのように、ボードも一緒についてくる。そのまま膝で勢いを殺しながら着地し、すぐさま大学病院に向かえばいい。

だが、着地の衝撃で右手のお盆がバランスを崩した。アブねえ、と思った瞬間、^⑥心臓がズキリと縮む。左手を添えて倒れそうなお盆を支え、無理矢理バランスを取ろうと試みる。だが、ボードはコントロールを失って吹っ飛び、ひっくり返りながらアスファルトの歩道を転がっていく。なんとか着地しようとした結果、右の足首が変な角度で地面に着いた。それでも、全力で踏ん張ったおかげで、転倒は免れる。事前に練習をしたときには失敗はしなかったが、異様なプレッシャーに負けた。あのガキンちよめ、と圭介は舌打ちをした。

足首に走った痛みは捨て置いて、^⑦咄嗟に井を見る。湯気で曇ったラップの中で、スープがゆらゆらと揺れていた。額からどつと汗が噴き出す。手術室で患者の体に入るとき、親父はこういう思いだったんだらうか、と圭介は思った。誰かになにかを託されるプレッシャー。人の役に立て、と口癖のように言う父親は、それだけ人の命を背負ってきたのかもしれない。俺はメンタルが弱えな、と、圭介はため息をついた。

「圭介」

父親が圭介の様子に気づいて、駆け寄ってきた。見とけ、とまで叫んでおいてこのざまだ。痛みで足の踏ん張りが利かない。父親から「無理しやがって」「調子に乗るな」などと言われるのかと体を硬直させたが、圭介がなにか言う前に、父親は「お前、すごいな」とつぶやいた。瞬間、体中からどつと力が抜けた。

圭介が、お盆を差し出す。もう、四分は無理かもしれない。いや、無理だろう。圭介がフルプッシュするスケボーと、ろくに運動も配膳もしたことのない父親のヨチヨチ歩きでは、スピードが違いすぎる。だが、父親はそれでもラーメンを持って、病院の敷地に向かって脇目もふらずに走り出した。

足が痛えよマジで、とばやきながらも、圭介は父親の背中を見送る。そして、^⑧諦めの悪い親父だな、と、笑った。

* * *

圭介からお盆を受け取るなり、哲雄は^ア全力で走り出した。だが、走り出したといっても、この歳までろくに運動をしたことがなく、^イ家事も妻任せで料理など運んだ経験がない。ラーメンが激しく波打ちそうになって、おつとと、と、足がすぐに止まりそうになってしまふ。

圭介の状態は心配だったが、今はとりあえずこのバトンを繋ぐことだけを考えるようにした。予想外の^ウ展開になったが、圭介の離れ業が奏功^{（注4）}して、タイムは大幅に短縮できている。だが、それも裏目に出てしまった。圭介のスケートボードがなければ、四分以内の出前達成は、ほぼ不可能だ。とはいえ、息子を責める気はない。自分が言い出して、任せたことだ。その結果は、自分に責任がある。

たとえ無理でも、それでも。

（中略）

哲雄は、スロープを滑り下りる瞬間の息子の顔を思い出した。息子が^ススケボーの競技に参加している映像は何度も見たことがあるが、自分の命を顧みず、^⑨危険を楽しむかのような表情をすることに哲雄は嫌悪感を抱いていた。命に鈍感^{（注5）}であることは競技に必要なことなのかもしれないが、一歩間違えば、その恍惚^{（注5）}は息子のすべてを奪う。親として息子の人生を思えば、どうしても容認できるものではなかったのだ。

だが、あの瞬間。息子の顔はほんのわずか、恐怖にひきつった。スケートボードに乗ったままスロープを滑り下りてくるという芸当は、息子にとってさほど難しいことではないようだ。にもかかわらず、息子は恐怖した。命を背負ったのだ。自分の命だけではなく、あのラーメン一杯に乗せられた、人の命への思いを。その重い命を背負いながら、それでもスロープを滑り下りたのは、「無謀」ではなく、「覚悟」であつたに違いない。ちよつとだけ、ちゃんとしたじゃないか。

たまには、ドラ息子の頭でも撫でてやるか、と、^⑩哲雄は笑った。

（行成薫「四分間出前大作戦」より）

(注1) 「フルプッシュ」……………ここでは、全力で足で地面をけって進むこと。

(注2) 「フロントサイドに九十度ターンする」……………ここでは、進行方向に対してお腹が前を向く方向へ九十度回転すること。

(注3) 「躊躇」……………あれこれ迷って決めかねること。ためらうこと。

(注4) 「奏功」……………効き目が表れること。

(注5) 「恍惚」……………心を奪^{うば}われてうっとりすること。

問 一、——線①「カズキは弾む胸を抑えながら、やった、と笑った」とありますが、このときのカズキの気持ちの説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、誰よりも早くラーメンを運ぶことができ、「オジサン」を見返すことができたと感じ嬉^{うれ}しく思っている。

イ、これまでになく早くラーメンを運ぶことができ、達成感でいっぱいになり嬉しく思っている。

ウ、「オジサン」がうっかりストップウォッチを見せたのは、自分の必死さに気圧^{けお}されたからだと気づき得意になっている。

エ、「オジサン」のストップウォッチを盗み見て、自分の集中力の高さと速さに気づき得意になっている。

問 二、——線②「人の役に立て」とありますが、ここでは何をすることを指していますか。そのことを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を二十字程度で考えて答えなさい。

入院している 二十字程度 こと。

問 三、——線③「思う」の主語を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

問 四、——線④「父に貸しを作っておけば、今後少しは小うるさく言われることもなくなるだろう、というくらいの思い」と同じ内容を指す表現を文章中から十字で探し、抜き出して答えなさい。

問 五、――線⑤「体中が粟立つ」とありますが、その原因は何ですか。文章中から九字で探し、抜き出して答えなさい。

問 六、Aにあてはまる言葉を、文章中から四字で探し、抜き出して答えなさい。

問 七、――線⑥「心臓がズキリと縮む」とありますが、哲雄はこの時の圭介の状況をどのように考えていますか。そのことを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から七字で探し、抜き出して答えなさい。

このときの圭介は七字を背負ったと考えている。

問 八、――線⑦「咄嗟に」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、思い切りよく イ、勢いよく ウ、一時的に エ、瞬間的に

問 九、――線⑧「諦めの悪い親父だな、と、笑った」とありますが、このときの圭介の気持ちの説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、人の期待に応えようと全力を尽くす姿に敬愛の念を覚えるものの、程度や自分が置かれた状況を考えずに必死になっている父親を馬鹿にし軽んじる思いをぬぐえずにいる。

イ、これまで父親が背負ってきた責任の大きさに思い至るとともに自分の気持ち弱いことに気づかされ、父親に感服すると同時に今まで全くそのことに気づかなかった自分を恥じている。

ウ、人の思いを受け止め続けてきた父親に尊敬の念を抱くとともに、不器用ながら今自分ができることを必死でやり遂げようとする姿に親愛の情を覚えている。

エ、必死になって身体を張ったことで思惑通り父親を見返すことができ満足感を覚えるとともに、父親の懸命な行動を見て同じ志を持った仲間としての親密さを感じている。

問 十、――線⑨「危険」と同じ構成になる熟語を……線ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

問十一、――線⑩「哲雄は笑った」とありますが、このときの哲雄の気持ちの説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、他人の思いを受け止め、願いをかなえようとひたむきに行動した息子のことを、誇らしく思っている。

イ、長年かかって身に付けたテクニクを使って、他人の命を救おうと奮闘した息子のことを、頼もしく思っている。

ウ、年老いたとはいえ、長年外科医として懸命に働き慕われる自分の偉大さを息子に示すことができ、満足している。

エ、軽率で乱暴な息子の言動に長年心を痛めてきたが、思った以上にうまく改心させることができ、安堵あんどしている。

【三】 次の【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

① 安定した社会ではシステムの維持が大きな目標になるため、相対的に新たな科学的思考や客観的思考の重要性は、残念ながら下がります。個々の人生も安定化を指向するので、例えば大富豪が一夜にしてすべての財産を失ったり、経済的に厳しい環境で育った人が大逆転で富裕層にのぼり詰めたりするような大胆な②階層移動も少なくなります。自らが強く望まない限り、いわゆる決められたルールの上を進むような人生の価値が高くなるので、それを選好する人が多くなるのです。このように社会が安定していくと、自分の所属する集団のルールが、社会全体のルールである、という錯覚を起すようになります。③違うルールもある、ということが理解しづらくなっていくのです。

経済的に恵まれた環境に育ち、学力の比較的高い人は、同じような水準の人たちが集まる学校に幼いうちから入り、いわゆるエリートのなキャリア形成を志向します。他方、金銭的な事情で進学を諦めたり、中学や高校を卒業してすぐに働かなければいけなかったりという環境で育つ人も少なくありません。

そして彼らは互いに、「高卒は使えない」とか「大学なんて遊び場でしかない」「東大卒エリート官僚が日本をむしばんでいる」「底辺と関わりたくない」などと罵り合う事態を招いています。これは結局、自分とは異なる、経験したことのあるルールと異なるルールを持つ集団に対して理解や共感がしにくくなったことによる、ある種の混乱と見ることができます。

では、異なる階層間でも、互いのルールに寛容に接し共感し合えるようにすることはできるのでしょうか。わざわざ社会の秩序を乱し、極端なことを言えば、現在の社会を一度すべてご破算にするようなことをしてゼロから仕組みを再構築しよう、というのはあまり現実的ではありません。代わりに、古くから取られている方策があります。村落共同体で行われてきた祝祭です。このとき、共同体のルールは一時的にリセットされ、人間関係は流動化（その一時だけであつても）されます。その際、共同体のルールから解放された人同士の交流が促され、集団バイアス（注1）を乗り越えた形での共感が可能になるという仕組みです。また、より穏やかで長期的な形では、恵まれた環境を「寛容であることを義務として課されている」と捉え直すというやり方があります。欧州の伝統的な④noblesse oblige（ノブレス・オブリージュ。身分の高い者はそれに応じて果たさねばならぬ責任や義務があるという道徳観）という考え方がこれに相当するでしょうか。

上流階級の人々が跡継ぎを育てる際に、修業の意味でわざと違った環境を経験させるのは、その典型です。例えば大商家の跡取りであれば、商いの道理とともに、従業員や顧客の心理をわかつていなければいけません。しかし、生まれてからずっと裕福な家庭で過保護に育ってしまつと、階層の違う人々と接する機会に恵まれません。そこで、わざと家から出し、違う環境に放り込んで学ばせるわけです。厳しい環境に身を置けば、

⑤メタ認知の力は上がります。

また、意図せずして結果的にそうなったという人もいます。幼少期からさまざまな家に人質に出され過酷な人生を送った経験のある徳川家康と、残念ながら多様な価値観に触れることはかなわなかった豊臣秀頼とでは、政治家としての能力に大きな差が出たのも当然だったでしょう。

似たような考え方は、老舗の世襲制企業の子が、自社を継ぐ前に修業として別の企業に勤めるなどといった形で、現在も行われています。

また、近年注目されているマインドフルネスにも同様の効果があります。マインドフルネスを実践することで、自分の思考や行動を認識し直すことができ、それをしっかり意識し、観察することが、メタ認知につながるからです。これも、普段の生活ではなかなか鍛えにくい自分のメンタルを見つめ直す、ある種の回り道と言えるでしょう。

先ほど述べた、いつもと違う道を歩くことと組み合わせ、計画をあえて立てずに一人旅に出てみるのもよいでしょう。行き当たりばったりの、すべて自分で決めなければいけないような旅の途中では、必ず予期しないことが起こるものです。何とか乗り切るためには、前頭前野をはじめ、脳全体を賦活させるような活動が惹起されません。もちろん安全対策には最大限留意していかねばなりません。ともあれ、予期しない事態を克服したとき少なからぬ充実感が生まれるのは、脳が新しい成功体験を得た喜びによるものです。

本を読むことで私たちは、異なる環境に身を置くのと同じような体験を手軽に、擬似的に味わうことができます。最も効果的なのは、普段の自分なら「絶対に読まない本」「関心のない本」を手にとってみることです。できるだけ自分と遠い立場、考えの異なる著者の本や、これまで関心を持っていなかったジャンルの本にあえて触れていくのです。

何か本を読もうと考えるとき、仕事や勉強などの必要に迫られない限り、手に取るのは、すでに知っている好みの作者の作品か、元々関心のあるジャンルになるケースが大半でしょう。書籍通販サイトを見ている、「あなたへのおすすめ」として表示されるのは、かつて読んだことのある著者の作品や、同じ本を購入したユーザー、つまり似たような好みを持つ人々が買った本ばかりです。

そこであえて、これまでの自分であれば「絶対に読みにくい本」を開いてみるのです。まずは立ち読みでも十分です。違う性別、違う経歴、全く関心のなかったジャンルやテーマ、そして「この著者の言うことは気に入らない」と思っている人をあえて選んでみるのです。

ベネッセコーポレーション取締役の福武英明さんは、飛行機で長距離移動をする際には、普段なら絶対に見ない映画をわざわざ選んだり、書店などでも、自分が通常ならまず選ばないような本をあえて買ってみたいするといいます。福武さんなりのお考えがあつてのことですが、脳科学の立場からこの習慣を解釈すると、^⑥固定化された概念や社会通念をややすと越えられる柔軟な共感力を鍛えるための地道なトレーニングのように見えるのです。

こうして考えてみると、本は実によくできたツールです。^⑦その書籍の著者が記したような内容を、本人から聞き出そうとしたら、まずは本人に会うところから、努力を始めなければならず、かなりのコストと時間がかかります。さらに、もはや著者が存命でない場合には、そもそも会うことができないのです。しかし、本というメディアを利用すれば、そんなハードルをややすと越えて著者の思想の深いところまでアクセスでき

ますし、本当にどうしても肌に合わなければ途中でやめたっていいのです。本人を目の前にしているのとは違って、角も立ちません。

オーストラリア国立大学と米ネバダ大学の研究者たちが、2011～15年に世界31の国や地域で25～65歳の16万人を対象に調査した「国際成人力調査」のデータを分析したところ、読み書きや数学のテストの成績は、16歳頃に家庭にあった蔵書数と相関があるという結果が得られたといいます。なぜこうしたデータが出たのかは明らかではありませんが、親をはじめとするその家庭の人々が使用するボキヤブラリー(注8)の豊かさ、複数の価値観に常に触れていることが、子どもの知能の発達に深く関係しているのだろうと現在のところは考えられています。

これを脳科学的に考えると、本がたくさんある家で育つことと、先ほど述べた、跡継ぎをわざと別の環境に放り込んで修業させることには(7)共通点がありそうです。自分の両親の思考だけに触れて育った子どもと、両親以外の大人とも深く関わった子どもとでは（良くも悪くも）性格形成に差が出ます。それと同様に、たくさん蔵書がずらっと並んだ家で背表紙に囲まれて育ち、その数冊だけでも目を通すことで、「この世にはいろいろな考え方が存在する」という意識を早くから持てた子どもの方が、脳が発達する時期をより有意義に過ごすことができたと考えられます。

（中野 信子「人は、なぜ他人を許せないのか？」より）

【文章Ⅱ】

人間関係のトラブルを避けるためには、ちょっと不思議な言い方に聞こえると思いますが、仲間意識を不必要に高めすぎないという方法も有効なのです。

仲間意識を高めないためには、例えば、クラスの人間関係が入れ替わるようなイベントをするなど、(8) 集団が固定化し、関係が濃密になりすぎない工夫を取り入れるとよいでしょう。

（中野 信子「ヒトは『いじめ』をやめられない」より）

- (注1) 「バイアス」……………「かたより」や「思い込み」のこと。
- (注2) 「世襲」……………特定の地位、職業、財産などを子孫が代々受け継ぐこと。
- (注3) 「マインドフルネス」……………今、この瞬間の気持ちや考えに、しつかり気づくこと。
- (注4) 「賦活」……………はたらきを活発にすること。
- (注5) 「惹起」……………何かを引き起こすこと。
- (注6) 「ツール」……………ここでは道具、手段、方法などのこと。
- (注7) 「コスト」……………ここではなにかをするためにかかるお金のこと。
- (注8) 「ボキャブラリー」……………知っている言葉の数のこと。

問 一、【文章Ⅰ】に肯定と否定を入れ替えてあるところが一箇所あります。【文章Ⅰ】から一文で探し、最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

問 二、——線①「安定した社会」とありますが、そのような社会では、重要性が相対的に下がるとされている思考はどのようなものですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、独創的で革新的な思考と直感的で斬新な思考。
- イ、衝動的で情緒的な思考と自分の価値観に基づいた思考。
- ウ、第三者的な全体を見通す視点と分析的で合理的な思考。
- エ、分析的で合理的な思考と懐疑的で多角的な思考。

問三、——線②「階層移動も少なくなります」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、平等意識から経済的格差が少なくなるため。
- イ、個々の人生が安定化を指向するため。
- ウ、社会システムが多様性を帯びて複雑化するため。
- エ、社会システムの維持が徐々に困難になるため。

問四、——線③「違うルールもある」とありますが、その例として適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、日本では太陽が東から昇るが、ブラジルでは西から昇るという考え方がある。
- イ、アメリカでは分かりやすいジョークが好まれるが、イギリスでは皮肉や自己卑下・ブラックユーモアが好まれる傾向がある。
- ウ、時間感覚一つとっても、日本人は集合時間遵守を前提とするが、イタリア人は厳格に時間を守ろうとはしない風習がある。
- エ、韓国人が結婚に求めるのは、「ロマンチック」や「相手の容顔の美しさ」だが、中国人は「安定性」や「経済力」を求める感覚がある。

問 五、——線④「noblesse oblige」とありますが、その例として適当なものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア、生徒会役員が自分の公約を実現するために、反対意見を無視する。

イ、英国王室が多くの慈善団体じぜんを支援し、ボランティアもする。

ウ、世界的なIT長者が、教育支援に多額の寄付をする。

エ、高価なブランド品を多数購入こうにゅうし、経済の活性化を図る。

オ、いつも集団の和を乱す行為をする者を避けるようにする。

カ、空手を習って強くなった者がイジメをする人を叩く。

キ、私立高校の生徒が自らすすんで地域の清掃せいそうを行う。

ク、二世議員が「視察」と称して海外旅行を楽しむ。

問 六、——線⑤「メタ認知」とありますが、この文章の文脈における「メタ認知」とはどのようなものですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、上流階級の跡継ぎが厳しい環境に身を置くことで、自分の立場や価値観を絶対化し、他者の視点を理解する力。

イ、上流階級の跡継ぎが自分と似た人々と接することで、従業員や顧客の心理を理解し、より良い判断や対応をする力。

ウ、自分を客観視できる立場に身を置くことで、裕福で過保護に育った自己への嫌悪感を理解可能とする力。

エ、自分を客観視できる立場に身を置くことで、「自分は恵まれている」・「他者はどう感じるか」などを冷静に見つめ直す力。

問 七、——線⑥「固定化された概念や社会通念をやすやすと越えられる柔軟な共感力を鍛えるための地道なトレーニング」とありますが、そのトレーニングの具体的な方法の一つを文章中から二十九字で探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問 八、——線⑦「共通点がありそうです」とありますが、それはどのような共通点ですか。次の文の空欄にあてはまる言葉を、文章中から指定された字数で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

1、二字	な	2、二字
------	---	------

にふれるという共通点。

問 九、【文章Ⅱ】は【文章Ⅰ】と同じ筆者によるものです。——線⑧「集団が固定化し、関係が濃密になりすぎない工夫」とありますが、この「工夫」の具体的な方法を表している一文を【文章Ⅰ】から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

[illegible]

十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一

[illegible]

〈受験生はこれより上段には記入しないこと〉

問九	問八	問六	問四	問二	問一
	1				最初
		問七	問五	問三	
	2				
					}
					最後

問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	
問九								
問十								
問十一								

注意事項

- ・解答は解答欄の枠内に濃くはつきりと記入して下さい。
- ・解答欄以外の部分には何も書かないで下さい。

氏 名

受験番号

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

評価点

第一回 中学校入学試験問題
〔国語〕
解答用紙
(2月1日午後)